

○第1回久米南町学校教育審議会 概要

開催日時：令和5年2月3日（金） 午後5時00分～午後6時45分

会場：久米南町文化センター2階 ホワイエ

出席者：委員 11名（熊谷委員 神田委員 下山委員 青木委員 田中委員
中田委員 清水委員 河合委員 小川委員 漆間委員
山中委員）

事務局 4名

欠席者：0名

委員の委嘱、教育長挨拶、委員紹介後、会長・副会長の選出に入り、会長に熊谷委員、副会長に青木委員が選出される。

青木教育長から、諮問書を熊谷会長に手渡し、議事に入る。

はじめに、教育委員会から目指す教育、久米南町の状況等を説明（添付資料参照）。

会長 丁寧な説明ありがとうございました。我々がこの後考え方を共有していくにはこのようなことを理解しておかないといけないと思います。この学校の統廃合の問題は、久米南町だけの問題ではなくて、全国の統廃合を抱えた地域の共通した課題です。どうしてもこの問題は危機だ、ピンチだというふうにとらえられてしまうことが多いわけですがけれども、逆に小中一貫教育という新しい考え方で、ピンチをチャンスに変えていこうじゃないかということだと思えます。このあたりの説明を受けて、第1回目ですから皆さんの忌憚のないご意見を伺おうと思えます。

委員 限られた時間で、今の説明で時間を使い、残った時間で審議が出来るのか疑問が残る。説明してもらわなくても正直分かっている内容で、皆さん仕事の合間をぬって参加しているのだから、有効に使ってもらいたい。小中一貫は意見が出にくいかなと思う。町の方針があるのであれば、町長からこういう思いがあるというのを示してもらわないと、義務教育学校が良いのか、小中一貫校が良いのか、なかなかわからない。アバウトすぎて、いつまでにといいのもわからない。

会長 今日1回で答申を出すわけではありませんので話し合いを重ねて行きたいと思えます。具体的な内容についても、ご意見があれば我々も教育関係者として出来る限りお答えしていきたいと考えています。

委員 町として小中一貫校は決まっていますか。もう決まったことを議論するんですか。小中一貫校になったらという冠がついた議論になってしまうので、小中一貫校が良いのか、小学校6年中学校3年というふう

に取っていくのが良いのか、こういうことを話し合うのが教育審議会だ
と思う。

会長 統合するというのは決まっていることですので、その新しい学校をど
ういうふうな形にしていくかというのがこの会です。小中一貫教育あり
きというわけではありません。いろいろな形の中で小中一貫校というの
も有効ではないかというふうに触れられた説明だったと思います。この
会の話し合いの中で、これまで通りの小学校で一つの学校を作るのか、
中学校も含めて小中一貫校を目指すのか皆さんと議論を進めて行けれ
ばと思います。

委員 地域に小学校が無くなるという前提の中で、地域とともに子供を育む
学校づくりと、学校を核とした子どもも大人も学びあう地域づくりとい
うのが、こんな都合のいいことができるのかどうか。場所も違う、地域
も違う、生まれたところも違うでこういうことができるのか。久米南学
が始められているが、郷土愛というものが子供たちだけでどうなのか。
教える側の先生方も共にやっついていかないと押しつけにならないかと。

会長 確かに久米南中学校では久米南学が始まっています。県下では各学年
でバラバラなテーマで学習しているところが多いですが、久米南町は3
年間、久米南学を通じて学んでいこうとしています。それを小学校から、
将来的には9年間を通して学んでいこう、取り組んで行こうとしていま
す。小学校の先生も、中学校の先生も9年間のカリキュラムを作ってい
きます。こうなってくると、これって先生だけで作るんじゃないよねと
いうふうになっていきます。例えば浅口市の寄島小学校ではコミュニテ
ィスクール、地域と学校が連携しています。そこでは学校の先生が作っ
たカリキュラムを地域の人に見てもらって、地域からの意見を聞いて取
り入れてフラッシュアップして高めていく。そういう取り組みをしてい
るところもあります。きれいごとと思われるかもしれませんが、こうい
うことを作っていきたいという思いなんじゃないかなと思います。

委員 郷土愛自体、教えるものなのか。学校が、地域が。自分で勉強するもの
なのか。子供たちの郷土のとらえ方が変わってきていて、グローバル化
で大きくなっていく中で、小さな郷土でいいのか。

会長 確かに難しいとこだと思います。ただ委員のおっしゃる通り、教え込ん
でいくものではないと思います。大人と子供と一緒に育んでいくものだ
と思います。総合的な学習の時間を使って取り組んで行きますので、先
生が教えるのではなく、子供たちが中心となって取り組んで、先生はサ
ポートに、そうなってくると増々地域の方と、保護者の方と一緒に郷土
愛が育んでいけるんじゃないかと思います。ただ目に見える物でもない

し、押し付ける物でもない。ある先生が子供たちにいい大人と出会わせたい、学校だけではどうしても体験できない、話せないとおっしゃっていました。地域も一緒に育てていくという気持ちじゃないといけないんじゃないかなと思っています。これは本当に意見が分かれるところで、一つ言えることは教え込むものではない、グローバルの中のローカルを大切にしてもらいたい、正解が無いかもしれないけど、先生に任せるだけではなく、15歳までは久米南町の町民が責任を持つという体制で協力していくことじゃないかなと思います。

委員 高校進学があるので、15歳で区切るのではなく、18歳まで考えないと視野がものすごく狭くなっていると思う。もう一つ気になるのが習い事一つとっても久米南町には無い。津山に行ったりしないと。教育ができることが限られてしまっているなど。津山の子と比べて、算数や国語のスピードもレベルも違う。教え方は同じはずなのに。目と鼻の先の地域の違いで、こんなにも差が出ているんだと感じた。その差を無くさないで、教育格差じゃないですけど、それが町のせいなのか分からないですけど、私自身感じています。

会長 おっしゃるとおり教育格差の問題はあります。ただ学校教育ができることがどこまでかということもありますし、久米南町の三つの小学校がバラバラになってそこに差があつてはいけない。誤解があつてはいけないのですが、津山市と比べて久米南町の子どもたちの学力が低いわけはありません。

委員 今まではカリキュラムが決まっている状態でいろいろな取り組みを進めていましたが、カリキュラムを作る段階から地域の方にも入って頂くというやり方についての議論が始まっています。

委員 語る会の頃から参加させてもらっている。小中一貫校をいきなり出されると、ついていけないところがある。最初は人数が少なくなってきたから小学校を一緒にした方がいいよねという話だった。私は現状で良いと思っていましたが、地域によっては子供が少なくなつて困っていて、3小学校で同じ学習をしようとする、難しいところがあるということだったので。小中一貫校がいいですよと言われてもなかなか受け入れられない。成功しているところは中高一貫が多い。

会長 久米南町では中高一貫は難しい。高等学校がありません。小学校を卒業したらよそへということにつながりうるので。お話を聞く限り三つの学校が統合して新しい学校を作るところを、いきなり小中一貫校が出てきて戸惑っている。

委員 周りにも小中一貫校への戸惑いを感じる人も多いです。

委員 小学校が統合して一つになれば、小一校、中一校という形になりますね。そうしたときに、新しく出来た小学校を卒業すれば必然的にほとんどの子が久米南中学校に入学します。例えば小学校の高学年の時に教科によって教科担任制を入れることができます。中学校の教員が小学校で教える、簡単に言えば出前授業で教えること。小学校の6年の算数は中学校の教員が授業しましょう、体育で中学校の専門の教員が行って、もっと高いレベルで指導しましょう、こういうことも可能です。三つに来てと言われれば、中学校も人数に限りがあるので、弓削には行けませんが、神目は行けません、こういうのはダメですよ。行けない学校があるのはいけないので三つを断ってしまいましたが、一校と一校であれば融通はし易い。一貫校ありきと言われているが、そうじゃなくて、一校と一校になれば出前授業なんかもし易い、こういう形は、最終的にみれば一貫校と同じ形ですよということ。

委員 英語の授業はこういうのがあれば。

委員 これが一校と一校となったときのメリットとして挙げられます。併設型となったときの連携というか、こういうことも出来るんじゃないんですかという形の提案だったわけです。一貫校を前に出さなくても、連携を進めて行けば、一貫校だったねという形になる。また、小学校の時に算数を教えてくれた先生が、中学校になって数学を教えてくれる、知っている先生がいるという形にもなる。今は無い形。違和感なく中学校へ入れると思う。小学生にとっては、知った先生が何人かいる中学校ということ。町内では別々の学校でも、外から見たときには一貫校にも見られる。表現の仕方が、先に行ってしまうと戸惑いがあるのかなど。形としては、小学校、中学校で良いと思います。

一歩進ませれば、同じ小学校から中学校へ行くのであれば、どんな児童、生徒にしたいかも共有出来て、小学校段階でここまでとか、それを受けて中学校で最終的にこの位置まで指導して高校へ送り出しましょうという形がとれば、久米南町にとって良い形がとれるのかなと思います。小学校、中学校というベースがあって、その中で教育し合う、こういう考え方が今の段階ではいいのではないかと思います。

会長 皆さんいろいろの意見がありますので、改めて協議していくことが必要だと痛感したところです。また、疑問に思ったところは質問してもらいたいなと思います。基本的には三つの小学校が一つになる、中学校は一つで、1対1だから連携していこうじゃないかというのが自然な考え方ではないか、その連携を強化したのが一貫校で、そうなっていけば区切りが6, 3でいいのか、もう少し弾力的でもいいのではないかと

ことも出来ます。教科でも久米南学のような新しい教科を取り入れることもできます。今日提示されたのは、三つが一つになって、1対1になるんだったら、もっともっと連携して行こうじゃないか、それぞれの考え方として、別々でやって行くことも出来るし、より連携を強化して一貫校という考え方もあるよ、一緒にドッキングして義務教育学校の一枚にという考え方もありますよというのを提示されたのですが、そのあたりを皆さんと協議して行きたいと思います。